

提言

「働き方改革」 一歩ずつ、着実に

中央教育事務所由利出張所長 佐々木 直樹

私の働き方改革

帰宅後は「メシ、風呂、寝る」が長年常態化していた私に転機が訪れたのは、昨年3月の全国一斉休校でした。閉塞感を感じていたあの頃、気分転換に「散歩」を日課にしてみました。これが結構気持ちいい。

さらに今年の6月。「スロージョギング入門」という本を手に入れました。「歩くようなスピードで走るだけ。」と書いてあり、早速取り組みました。走るのは到底無理と決めつけていた自分の壁を乗り越えた気分です。しかし、調子に乗って走るスピードを上げたら両足ふくらはぎを肉離れ。それでも痛みと相談しながら、楽しく続けています。おかげで体脂肪率が減り（なぜか体重は減らない）以前よりも元気に仕事ができている気がします。私の働き方改革の一つと捉えています。

働き方改革は進んでいますか？

学校を訪問した際、校長先生方に働き方改革の進捗状況をお伺いすると、実態に応じた効果的な取組が増えたと感じます。週1回、部活動の副担当が練習に行く日を設定して、主担当が定時で帰るようにしている学校。運動会であまり練習の必要がない種目を考案し、例年より事前の練習時間を大幅に減らした学校。職員会議の案件を週1回の打ち合わせに盛り込み、職員会議が延びないようにしている学校などです。

学校全体での取組に加えて、個人での取組も大切です。みなさんはどんな取組をしているのでしょうか。立命館アジア太平洋大学の出口治明学長が「これからは（コロナ禍になる前ですが…）遅い時間に帰宅して

『メシ、風呂、寝る』を繰り返すのではなく『人、本、旅』が必要だ。早く帰宅してたくさんの人に出会い、たくさんの本を読み、いろいろな現場に出かけて体験を積み重ねることで、人は情報を蓄積し頭が刺激される。そこから新しいアイデアが生まれて成長する。」と話していました。長時間学校にいただけでなく、学校以外の時間を充実させることで授業改善のヒント等を得ることもできると思います。体を休める日も意図的に設けたいものです。子どもたちに先生方が元気で楽しそうな表情を見せることは、最高の教育ではないでしょうか。

ますます高まる働き方改革の必要性

今年の本県教員採用試験における、小学校教諭志願倍率は1.4倍です。教職の人気低下が懸念されます。さらに定年年齢が令和5年度から段階的に引き上げられ、令和13年度には65歳となることが決まりました。人生設計の見直しが求められています。これらのことから、これからの学校は「働きがい」だけでなく、「働きやすさ」も必要です。そのためには、国、教育委員会、学校が、それぞれの立場で働き方改革に向けた取組を一歩ずつ、着実に進めていかなければなりません。

夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。この機会に、働き方改革の進み具合を再確認してみませんか。行事や会議を改めて見直したり、仕事の優先順位を決める力を高めたりすることで教育の質を向上させ、目の前の子どもたちの成長につなげたいものです。

第1回授業力向上推進協議会（国語・図画工作・美術）

国語は6月24日、図画工作・美術は7月6日に実施しました。教科指導CTからは、次のような授業提示（模擬授業）や実践発表がありました。

国語

会場：由利本荘市職業訓練センター
 授業者 由利本荘市立鶴舞小学校 佐々木絵里香 教諭
 発表者 八郎潟町立八郎潟中学校 佐々木 朋子 教諭

参加者を学習者役と参観者に分け、模擬授業（3年：「モチモチの木」）を行いました。授業者は、子どもに着目させたい言葉を明確にした発問等について解説しながら模擬授業を進めました。学習者役の先生方からは「子どもの反応を予想したり解釈のずれを生かしたりした発問が参考になった」などの感想がありました。グループ別協議では、考えを捉え直したきっかけとなった発言や教師の問い掛け、子どもの学びを深めた手立てなどについて意見交換がなされました。

実践発表では、劇化や図示など、思考の過程を可視化する活動を学習過程に取り入れることで、子どもが多様な感じ方や考え方に触れることができる取組の紹介がありました。聴覚情報が苦手など、様々な特性をもつ子どもたちへの学びを保障する授業づくりについて考えるよい機会となりました。



図画工作・美術

会場：由利本荘市職業訓練センター
 授業者 由利本荘市立本荘東中学校 山下 奈知 教諭
 発表者 五城目町立五城目小学校 上田 環 教諭

参加者を学習者役と参観者に分け、「本荘組子細工」の魅力を探る鑑賞の模擬授業を行いました。学習者役になった先生方は、実際に組子細工を組み立てるなど、視覚や触覚を働かせながら、対話を通して見方や感じ方を広げる楽しさを体感していました。

グループ別協議では、「子どもが造形的な見方・考え方を働かせて、学びを深める授業づくり」というテーマで、学習者と参観者の視点から協議を行いました。校種を超えて具体的な改善の手立てを共有することができました。

実践発表では、道徳科や総合的な学習の時間と図画工作科の題材を関連させることにより、深い学びを実現した実践例が紹介されました。子ども自身が造形的な見方・考え方を働かせるための教師の効果的な声掛けや、ねらいを明確にした題材設定などについて考えるよい機会となりました。



夏休み明け 不登校の未然防止に向けて

例年、夏休み明けに不登校が増加する傾向にあります。夏休み明けの子どもをよく観察し、気になる様子や何らかの兆候が見られたら、早期に対応、支援することが大切です。特に夏休み前から「遅刻や早退、欠席が増えてきた」「連続した欠席があった」「家庭環境や友人関係に変化があった」「孤立傾向にある」「学習に困難を抱えている」など、これまで不登校には至らないものの心配な要素がある子どもは、より丁寧に様子を観察する必要があります。早い段階で変化に気付き対応することができるように、日々子どもたちとの触れ合いを通して関係づくりに努めること、一人の教師の気付きが学年や学団、学校全体に共有されるように職員室の風通しをよくすることが大切です。

また、不登校の未然防止には、全ての子どもが学校に行きたいと感じる魅力ある学校づくりが不可欠です。コロナ禍での制限はありますが、秋は子どもたちが楽しみにしている行事や学習が多くなる時期です。今一度、行事や授業を通して仲間と活動するよさを感じられるような「絆づくり」、一人一人が自己存在感を感じられるような「居場所づくり」の視点から、不登校の未然防止の取組を進めていただきたいと思います。

※「居場所づくり」「絆づくり」令和3年度中央地区の教育P22参照

令和3年9月～令和4年3月の事業

9月16日（木）	英語担当教員授業力向上実践研修	県総合教育センター
30日（木）	第2回授業力向上推進協議会（理科）	にかほ市立平沢小学校 他
10月18日（月）	第2回初任者研修校長等連絡協議会 （兼第2回指導教員研修会）	県総合教育センター
21日（木）	特別支援教育かがやきミーティング 特別支援教育コーディネーター地区別連携協議会	県総合教育センター
22日（金）	外国語指導助手の指導力等向上研修	オンラインによる研修（ALTのみ）
26日（火）	キャリア教育実践研究協議会	県総合教育センター
29日（金）	第2回授業力向上推進協議会（家庭・技術・家庭）	由利本荘市立本荘北中学校 他
10月～11月中旬に実施	中堅教諭等資質向上研修事務所教科指導等研修Ⅱ	対象者所属校（各教科）
10月～1月中旬に実施	初任者研修事務所研修Ⅱ	対象者所属校
12月1日（水）	秋田県学習状況調査（小学校）	
2日（木）	秋田県学習状況調査（中学校）	
1月25日（火）	第3回授業力向上推進協議会	県総合教育センター

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって、各事業の中止や日程及び内容等の変更があった場合は、その都度連絡します。